



卓 話



クラブ協議会

★小林俊次年度会長

当日は600名以上の出席者による全体会議のあと、各部門に分かれて協議をしましたが、大変白熱した協議会でした。お手元に資料があるよう



にRI会長はインドのカルヤン・パネルジー氏、そして2580地区ガバナーはミズノスポーツ社長の水野正人氏です。今回大きな問題として取り上げられたのは、会員減少に関する事です。会員の獲得より維持の方が大切という発言が多くありました。やはり景気が悪いと会員の増強がうまくいかないという意見もありますが、そこは各クラブで減少をとどめるように頑張りたいということでした。もう一つは震災に関する援助についてです。これまで地区をあげてやってきた地雷除去の援助等、資金の運用方法を考え直してはということでした。またわくわくして出席できる例会の催しについて話が出ました。水野ガバナーのテーマは「簡素にして充実」、当クラブでのテーマは「SomethingをGetしよう」ですので宜しくお願い致します。

★廣本次年度社会奉仕委員長

地区社会奉仕では、クラブの社会奉仕委員会活動の情報公開の場にしていこうということでした。社会奉仕は地域に根ざした活動なので、それぞれ行っていることが違います。しかし他でやっていることを知り、参考にする事で、また新たな活動に結びつける場にしたいということでした。社会奉仕委員会は青少年育成委員会と環境保全委員会がありますが、環境保全委員会は職業奉仕委員会とほぼ一緒になっていますが、尋ねたところ多少視点が違うということでした。社会奉仕委員会の環境保全は皆さんに対する意識付けをするということに重きをおいています。最後に小沢パストガバナーが締めくくりましたが、社会奉仕の中心はやはり青少年の育成であろうということをおっしゃっていました。もう一つ問題にされていたのが、緑の禪の事です。「地球を守ろう」と唱っているが、そんな不遜なことをいうものではない。人間は地球に生かされているとおっしゃっていました。それと震災に関して

は、それを活動の場にするな、これは人間性の問題である。何かをするのではなく何かをするのが当たり前だとおっしゃっていました。次年度の社会奉仕活動を考えていますが、基本的には四谷中学校との関わり合いを深めつつ、他の試みを考えて行きたいと思っています。

★安田次年度副会長

次年度新世代奉仕委員長と兼任することになりました。この新世代奉仕委員はこれまでのロータリーの四大奉仕に加えられ、五大奉仕という形になるということで発足しました。実質的には青少年育成委員会を格上げして中心にもってきたような形で第五の奉仕を作ろうということだと思います。次年度では新世代奉仕委員会を設けて、インターアクト、ローターアクト、それに青少年交換委員会を包括するという事でした。青少年交換委員会は今まで国際奉仕委員会包括であったと思います。そして、次年度地区委員会では社会奉仕委員会にあった青少年育成委員会は実際上ありません。新世代奉仕委員会として統一され、青少年の育成に主題をおいてやっていくということです。その目的は「青少年と若き成人が社会的リーダーシップの向上、実践と地域社会への取り組み、国際奉仕活動を通じて彼らもたらす建設的変革の認識と理解に立ち、世界平和と文化相互理解を深めて推進する各種プログラムを実践する」という少し解りにくいことでした。そのプログラムを実践する意味からいくと、インターアクト、ローターアクトのプログラムを実践すること、それから皆さんには馴染みがないと思いますが、世界的に幅広く行われているロータリー青少年指導者養成プログラム「RYRA」を、今後日本のロータリーの中でもより活発に実践していこうということです。またユース・エクステンジというプログラムを同時に実践するという事でした。要は地域社会奉仕のリーダーの育成を目指すことが目的といわれています。

ここまでは新しい部門の説明的な話ですが、四大奉仕は常任委員会として常に設置しなくてはならないといわれています。五大奉仕もそういう位置付けになるのであるなら、色々なことを変更しなくてははいけません。これについて地区委員長に色々な質問が出ましたが、地区でも方向性は出ていないようでした。委員長曰く、この五大奉仕を設けたことはあくまでもRIの強制であり、とにかく第五の奉仕を作って、その実務はそれぞれクラブでやって下さいと言っているのです。地区もそれについては関与しないということです。地区協議会でも何かをせよということは全くありませんでした。これはどうも過渡期にあるので、1年間やっ

てみればそれなりの方向性が出るように思います。とりあえず、当クラブに関しては、インターアクト、ローターアクトが有りません。また青少年交換も学生が来ないと何もすることがありません。そうすると第五奉仕委員会といながら、何もしない委員会を常任委員会として設けなくてはならないという中途半端な話になってしまうことをご理解頂ければと思います。今後第五奉仕として成立してくれば、青少年の育成が中心となってくると思います。当クラブは社会奉仕に青少年育成関係が入っていますが、今後検討したいと思っています。次年度社会奉仕委員会での報告で小沢パストガバナーの発言が出ましたが、それもまた矛盾しています。社会奉仕が青少年育成であることが位置付けられているのであれば、わざわざこの第五奉仕をつくる必要はありません。地区も意見がまとまってないということがお解りになるとと思います。次年度に何が出来るか考えて行きますので、見守っていて欲しいと思います。

★佐藤次年度幹事

補足させてもらいますが地区の方で組み替えがありました。当クラブでは社会奉仕の包括部門に青少年育成と環境保全委員会が入っています。新世代奉仕という部門を作ってはいますが、そこに青少年交換委員会を入れていません。過渡期であるので多少変更していくことがあるかと思いますが、皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。

★藤原次年度副会長

地区協議会クラブ奉仕部門のご報告を致します。まず四大奉仕から五大奉仕に変わるお話がありましたが、当クラブのクラブ奉仕委員会に関しては変更がないという前提で話を進めていきます。上野現ガバナーがリーダーシップをとって進められた会議で、大きくは2点のテーマが取り上げられ、各ディスカッションを致しました。一つは会員増強で、むしろ退会防止のディスカッションをしました。原点に帰って1業種1会員を守り、職業分類の未充足、まだ職業分類でクラブにいない職種の会員の方を勧誘して行くとのこと。例えばドイツでは入会の基準を厳しくし、却って会員が増えているという事実があるという話でした。退会防止という点では、クラブ例会が楽しくワクワクして出席できる例会を作り出すことが一番良いと思います。卓話も他クラブの力を借りて会員卓話等を多くし、相互理解、親睦を深めた例会をして、出席率を向上させて欲しいという話もありました。現在ロータリーの会員で会員卓話リストの中でも、是非お話を聞いてみたいと会員方もたくさんいるようです。そういう会員の話を聞きつつ、世代間の交流も深め、当クラブの会員の中からもお願いして、職業のキャリアや、人生の失敗談なども聞き、例会卓話を通じて親睦を深めようということです。

もう一つのテーマは日本復興に向け何が出来るかということです。第2580地区が中心になり義援金をとりまとめて被災地に送るとのことで話が進められましたが、各クラブ単位でダイレクトに方策を考えてやることも良いとのことでした。姉妹クラブを持たれているクラブはクラブ単位で

支援をしているそうです。その場合どの資金を捻出していくかという話も活発に出了ました。スタンダードな考えとしてはニコニコの基金で、その他各種積み立ての取り崩し、例えば周年事業費もでました。また例会、特に食費になると思いますが、そういう費用を切り詰めて支援に回してはどうかという意見もありました。ロータリーとしては震災孤児の長期支援をしっかりと援助したいということです。例えばカウンセラーを1人1人付ける等、おもしろいアイデアとして米山奨学金制度のシステムの考え方で、予算を含め被災孤児の支援にむけてはどうかという話も出了ました。また被災後一定期間を過ぎたら、自肅も改めたらいかかという意見もあました。那覇ロータリークラブの会員の話では、沖縄は花で生計を立てている業者が多いので、震災後の自肅の影響で、その業界が相当厳しい状況になっているとのことでした。確かににはしゃぐ時ではないですが、そろそろ普通の生活に戻って経済を回すことも、支援の一つではないかと思います。現に9.11の時にニューヨークの元市長のジュリアーニさんが、普通に過ごしていることがテロリストに対する宣言だと言っていました。我々もそろそろそういう気持ちを持っても良いかと思うような会議でした。

★大野次年度職業奉仕委員長

職業奉仕の指針で委員長の小田切氏は日本の職業奉仕というのは近江商人の心得「三方よし」ということにあたる。として、売り手よし買い手よし世間よしという心得で職業奉仕を実践していくことを示されました。お配りした2枚目に職業奉仕の12章を月めくりの形にして、各クラブに配るので月初めにそれを提唱してくださいという話がありました。実際いいことが書いてあります。さらに地区環境保全委員会から12章の職業理念に加え、節電の実践ということで7月から9月の例会はノージャケ、ノータイで行って欲しいという要望や、例会の時、室温を2度～3度上げる努力を行う、各事業所の白熱灯LED化をして欲しい等の話がありました。当クラブでもこれを実践していきたいと思うので、ご協力お願い致します。

★秋葉賢次年度国際奉仕委員長

地区委員会では震災一色で、グローバル補助金、新地区補助金等すべてが震災にあてられるということが地区のおおまかな方針でした。各クラブで独自に動いて何が出来るか再検討して欲しいと言われているので、我々は今までの活動を継続するとともに、例えば色々な情報が乱れて飛んでいるので、留学生を通して、日本の正確な情報を伝えるといったことを織り込んで、各クラブの方針にして欲しいとのことでした。

★酒井次年度ロータリー財団委員長

地区協議会ではロータリー財団の簡単な説明と来年度のDDFの推進、使い道を凍結し、震災の方にあてるということを決定しました。来年度のロータリー財団委員会の方は、

震災に関する事で12～13年のロータリー財団の推進をするように言われています。クラブで使えるお金がDFFで、グローバル補助金と新地区補助金があります。グローバル補助金はパイロット地区しか使えなく、たまたま青森はパイロット地区だったのですが、東北の他の所に用いることが出来ないかと水野ガバナー・エレクトがRIに相談しています。新地区補助金の方はどこの県でも使えますので、今後そこを詰めていきたいと思っています。

★鯉江次年度地区ロータリー財団委員

地区協議会の始まる前に地区財団委員会がありまして、特命委員という特別のプロジェクトを負う委員ということになりました。その役割はおそらく震災の復興に対して、

どうお金を使っていくかを考えていくことだと思います。当地区はパイロット地区ですので、パイロット地区としかグローバル補助金が使えませんが、マッチング・グラントという昔の仕組みで、宮城など色々な所に大きなプロジェクトが出来ます。

★佐藤次年度幹事

4月19日の地区協議会にご参加された皆さんの報告でした。最後に私から大切なことを報告します。地区協議会で決定したのですが、次年度の前期の会費について1万円の震災に対する義援金を収めるということになりました。後ほど詳しいご案内を致しますので宜しくお願い致します。